



- 永代共養墓について
- ぶつぐら雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんがお坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつぐらグッズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇氣](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第4回 祖母の形見

BI 0 チェック いいね! 0 Tweet

今日は、亡くなった祖母の話をします。祖母は私が22歳の夏、満71歳でこの世を去りました。逆算すると、私が生まれたとき祖母はまだ49歳で、今の私とほとんど変わらない年齢だったわけです。そう考えると、なんだか不思議な気持ちが出てなりません。

と言うのも、私が記憶している祖母は、いつも地味な色合いの銘仙の着物などを着て、お化粧もなく、どこから見ても「おばあちゃんそのもの」のたたずまい。とても50代の“妙齢の女性”には見えなかったからです。

20歳のときに親が決めた人と結婚し、私の母を筆頭に全部で9人の子どもを産み(うち2人は死産)、一息つく間もなく45歳のときに脳溢血で倒れ、さらに53歳で胃のほとんど全部を切除。そのあと再び脳溢血で倒れて片手と片脚がマヒしてしまい、50代以降は杖なしでは外出できない毎日を送っていた祖母。そうやって苦労した分、人よりも早く年をとってしまったのでしょう。

けれども不思議なことに、祖母がメソメソしている姿を私は一度も見たことがありません。それどころか、祖母はいつも誰よりも楽しそうに笑っていました。ネアカというのかポジティブというのか、普通の人なら投げ出したくなるような深刻な問題に直面しても、決して愚痴を言わず、その問題をまるまる受け止めてしまうような懐の深さが祖母にはありました。

一度などは、お坊ちゃん育ちで人を疑うことを知らない祖父が詐欺師に騙され、先祖から譲り受けた広大な土地や家屋敷を盗られて、ほとんど一文無しになってしまったこともありました。私が生まれるずっと前の出来事です。このときは、同じ詐欺師に騙されて全財産を失った被害者がもう一人いたそうで、そちらの方はお気の毒にも、世をはかんで自殺してしまったそうです。

祖母も、さすがにこのときは死ぬほどつらかったに違いありません。しかし祖母には、そういうどん底の出来事さえもプラスに変え、最後は笑い飛ばしてしまうようなユーモア精神がありました。

世間ではよく、「あの人はツイている」「あの人はツイていない」という言い方をしますが、その分類で行くと、祖母は間違いなく「ツイていない」グループの筆頭でした。ところが実際には、祖母は「ツイている」グループの人たちよりも遥かに幸福そうだったのでした。

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



幸福や不幸に実体はなく、どんなささやかなことにも幸福を見出して笑える人こそが、唯一幸福になれる人なのだ。祖母はそのことを、身をもって示してくれていたのかも知れません。

私が4歳になると弟が生まれ、母は赤ちゃんにかかりきりになりました。私はここぞとばかり反抗期に突入し、毎日のようにプチ家出を繰り返すようになってしまいました。

なにしろそれまで私だけのものだった母親を、いきなり現われた見知らぬ赤ちゃんに取られてしまったのですから、子ども心にそれはショックでした。そうは 言っても、プチ家出をしたところで行き先がいくつもあるわけはありません。家を飛び出した私は、路地を駆けぬけ、他人の家の庭を横切り、いくつもの塀を乗り越えて、一直線で隣町にある祖母の家に駆け込むのが常でした。

玄関で靴を脱ぎ、「おばあちゃん！」と呼びかけながら奥の居間に駆けこんだ私の お目当ては、ただ祖母を独占することだけでした。弟が生まれて一時的に家のなかの居場所を失った私は、すっかり“赤ちゃん返り”してしまい、ただ甘えさせてくれる大きな人が欲しかったのかも知れません。祖母の膝の上に抱っこしてもらって、赤ちゃんのまねをしたり、祖母の気まぐれで毎回結末が異なるおかしな 昔話を聞いたあとは、すっかり満足して家に帰って行くのが常でしたから。

あの頃、祖母と私がどんなに仲良かったか、わかる人はわかってくださるでしょう。それから、小さな子どもにとって“おばあちゃん”がどれほど大切な存在かということも。

できることならいつまでも、祖母には生きていてほしかった。けれどもそんなことは、もちろん不可能です。お釈迦さまもおっしゃったように、生まれたもの、生じたもの、作られたものは必ず壊れ、愛する人とは別れるときがやってくるのです。

誰もそう望んだわけではないのに、歳月はみるみるうちに流れ去り、私は祖母よりも10センチ以上背が高くなり、気がつくとも祖母の病気はすっかり悪くなって いました。そして、大学を卒業した私がオーストラリアの大学院に留学する直前のある夏の夜、ついに祖母とのお別れの日がやってきてしまったのです。

祖母が亡くなったとき、私は大学に入ったばかりの弟と東京で二人暮らしをしていたのですが、真夜中に祖母がやって来て、「さようなら」と告げて行きました。あるいはあれは夢だったのかも知れませんが、それはとてもハッキリしたお別れの挨拶でした。それで、私が布団の上に座って泣いていると、弟も起きてきて一緒に泣いてくれました。弟も祖母の死を悟っているようでした。

よく、本当に近い人が亡くなるときは必ずそれがわかると言いますが、このときがまさにそうで、誰からも連絡は来なかったというのに、祖母が亡くなったその瞬間、なぜか私も弟もそのことを完全に理解していたのです。

長く病気と付き合い合った祖母は、荼毘に付されたあと、ほとんど骨が残りませんでした。焼き場の人が、「これは長患いをなさった方ですね。強い薬を飲み過ぎて、骨がポロポロになっていたのでしょう」と気の毒がってくださいました。

お葬式が終わると、生前の祖母と親しかった者たちで形見分けをしました。私は、祖母が好んでよく着ていた浅紫色の小紋の着物をもらい受けました。地味な色 合いでしたが、それは祖母のお気に入りの1枚だったのです。その着物を見ていると、昔、家を脱走して全力で祖母の家に駆けて行き、膝に抱っこしてもらった 遠い日の風景が走馬灯のようにめぐりはじめ、二度と帰らぬ日々が改めてしみじみと想い出されるのでした。

祖母の形見の着物は、それから長いこと箆笥の中で眠り続けました。着てみたい気持ちは山々だったのですが、なにしろ祖母と私とでは身長が10センチ以上違うため、着ようにも少しばかり身丈が短すぎたのです。

祖母が亡くなってから22年後の2004年、私はご縁あってダライ・ラマ法王のお住まいに

上がり、「どうしたら自殺は防げるか」というテーマで単独インタビューをさせていただくことになりました。この話が決まったとき、私がすぐに思ったのは、「おばあちゃんの形見の着物をほどこいて、チベットドレスに仕立て直そう。それを着て法王に会いに行こう」ということでした。

祖母は敬虔な仏教徒でしたから、生きていれば、きっと私が法王にお会いすることを誰よりも喜んでくれるはず。脚が悪く遠出ができなかった祖母だから、せめて着物だけでもヒマラヤまで連れて行ってあげよう。そう考えて、あの浅紫色の小紋をチベットドレスに仕立て直したのです。

こうして祖母の形見の着物はチベットドレスに姿を変え、ヒマラヤのダラムサラという小さな町にあるダライ・ラマ法王のお住まいまで、私と一緒に行ってきました。ヒマラヤの風に吹かれながら、私は小さく「おばあちゃん、ありがとう」と口にしていました。

不思議なことですが、祖母が亡くなったあともずっと、私はいつだって祖母に護られてきたような気がするのです。もちろん、それは単に私がそう思っているだけの“空耳”のようなものかも知れないのですが、人間の死には、死という事実だけでは終わってしまわない、何かもっと大きな力が働いているのではないかと、ときどきふっと、そんな気がしてならないのです。

今、祖母のチベットドレスは、箆笥のなかで再び静かな眠りについています。

≪ 第3回 [ありがとうの輪](#) 第5回 [生きるための勇氣](#) ≫

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。

1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



マイクロソフト Power BI

あなたのデータを収集&管理。どなたでも、どのデバイスでもアクセス可 powerbi.microsoft.comへ進む





© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

- | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------------------------|--|----------------------------|--|---------------------------|--|--------------------------|
| 永代供養墓 密厳霊塔 | | ぶつぶつ雑記ブログ | | 真言宗について | | 金剛院イベント情報 | | メールを送る |
| しいなまち みとら | | 唱えてみよう! | | 仏教いちねんせい | | 金剛院NewS | | おすすめリンク集 |
| こんごういんキッズ | | たいけんしてみよう! | | まんが 小坊主くん! | | 金剛院について | | バックナンバー |
| メディアで紹介 | | 東京お寺めぐり | | ぶつ仏クイズ | | 金剛院の四季 | | サイトマップ |
| | | ばばばのレシピ | | ふしぎな密教法具 | | 地図・アクセス | | |

外壁塗装の適正相場っていくくら？

利用者の93%が【安くなった】と回答。あなたの街の適正価格／5秒でチェック！ [gaiheki.yeay.jp](#)へ進む

